資料-I

第2次南風原町地域福祉推進計画 第3回策定委員会での意見等

・松堂委員からの質問書より

- =1.福祉教育について、各教職員への福祉教育も必要と思う。また、学校現場の声を把握するため、策定委員会にも先生が入って意見交換を持った方がいいと思う。
- 2.自治会加入の促進について、南風原中学校区は住民の定着率が低いと感じるので、同中学校区の与那覇、宮平、兼城といった大きな字より、地域の強化が必要と思う。
- 3.民生委員について、福祉団体と民生委員の意見交換の場がない。情報を共有して各団体や民生委員の活性化が必要と思う。

・自治会活動について

- =住民の価値観が多様化する中で我々は暮らしている。そういった中での自治会づくり、魅力ある地域づくりを進めることで、自治会加入率の促進になるだろう。

・守秘義務について

- =守秘義務のマニュアルは役場にあるのか。他県では情報開示についてマニュアルがあるという。情報がもらえる窓口も一本化しているところがある。
- A：行政内部では連携しているが、外部へ出すとなると個人情報のバリアがかかっている。個人情報審議会に諮ってから情報提供している。

・福祉団体の連携の場

- =福祉団体（8団体）の連携の場はあるか。
- A：以前は福祉団体の集まりがあったが、共通したテーマがないため開催を取りやめた。今日の話しを聞いて、福祉団体の話し合いの場が必要と感じた。
- =社協の方でテーマや進行について示しながら、話し合いの場を持ってほしい。

・窓口対応について

- =福祉サービスは方が変わるたびに申し込み様式など変更となる。わかりやすい窓口対応をお願いしたい。

・保幼小の連携について

- =「保幼小の連携」という文言があるが、そのほか、学童や児童館など子どもにかかわるところも連携に入れた方がいいと思う。あるいは保幼小「等」としてはどうか。

A：保幼小の連携はまだ始まったばかり。これらのつなぎをやってから、学童や児童館なども連携していきたい。「保幼小等」という表現にしたい。

・児童館について

=児童館を利用した取り組みの強化、民生委員などいろんな人たちとつながって、子どもや保護者に対しての支援を広げていきたい。

・産前産後からの切れ目ない支援について

=切れ目ない支援というのが、保育士や助産師は需要に対して足りているのか。

A：毎年若年出産が10~13人ほど、そのうち3、4人は支援が必要となっている。保健師、社会福祉士でしっかりケアをして健診時にも様子を見る。そういった継続した支援の中で新たに助産師も入れて専門的な視野でケアしていく。

=金銭面など、包括的に助けていくなど複合的に支援が必要な人もいると思う。社協からの支援も必要かと思う。

・日常生活自立支援事業について

=日常生活自立支援事業は今の人員体制のまま強化するということか。

A：ニーズも上がっていくため今の体制は厳しい。人材確保も含め強化していきたい。

=必要としている人を拾い上げてつないでも、対応できないと結局解決できないのだと住民が引いてしまう。

・買い物支援について

=買い物をしたいときに、社協からでも車を出してほしいという話があった。

A：病院受診のための支援はある。